

令和6年度 学校評価書

令和7年3月31日
 学校法人山名学園 山名幼稚園長 諸井理恵
 山名幼稚園学校評価委員会

1. 幼稚園の教育目標
- 元気な子 … ①戸外でなかよく遊ぶ子 ②正しい生活習慣を身につける子
 - やさしい子 … ①情緒豊かで思いやりのある子 ②自分や友達を大切にすること
 - 考える子 … ①物事に興味をもち考えたり工夫したりする子 ②最後までやりとげる子
 - ありがとうのいえる子 … ①感謝の気持ちを持てる子 ②ものをたいせつにする子

2. 本年度の重点課題 「主体的な遊びを楽しむ」…安心安全な場で、子どもたち自ら生活を楽しむための考える力、工夫する力を引き出す充実した環境、活動を考えていく。

3. 評価項目に対する自己評価及び学校評価

項目	評価点	自己評価結果	評価点	学校評価結果
項目別評価	A	(満3歳)園生活に慣れ、自分で朝の支度をする事が出来るようになった。友だちや先生に親しみが生まれた。(3歳児)自分のことは自分でやってみよう、少し難しいことも挑戦してみようとするようになった。(4歳児)自分と友だちとの違いに気づき、気持ちを推察したり、譲り合ったりすることができるようになった。(5歳児)友だちと思いを伝えあい、相手の思いを受け入れたり、周りに認められたりすることに喜びを感じ、自分たちなりに表現することを楽しんだ。	A	子どもたち同士が素直にお互いを思いやりながら生活しており、園での生活を楽しみにしている様子が見られる。来訪者に対しても明るくあいさつをする姿が多く、「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えられる子どもたちがたくさんいる。
	A	子どもたちの多様性を認めひとりひとりの気持ちに近づき、理解を深められるよう努力をした。また、それぞれの表れに個別の対処をしつつ、集団の大きなくりの中でも自分も周りも大事に出来るような心を育てる姿勢も持って保育を行ってきた。子どもたちが自らできることを増やし、友だち同士で考えたり工夫したりする生きる力の基礎を育めるよう心掛けた。	A	園児の主体性を課題としたカリキュラムの研究に熱心に取り組んでおり、職員間の連携もよく図られている。また、発達段階に応じた個々の園児への対応も的確に行われている。
	B	職員の認識と保護者の理解にずれが生じることがあり、細やかな配慮の必要性を感じる。お便りなどの文章では伝わりにくいこともあるため、図や写真などを活用し、保護者の立場に立って情報が正確に伝わるよう、わかりやすく工夫することが重要である。個別面談を通じて、子どもの発達や必要な配慮について情報交換を行い、園と家庭との連携を丁寧に行っている昨今であるが、配慮が過度になり、先回りしすぎた対応とならないよう、十分に留意する必要がある。保護者が信頼と安心を持てるよう、今後も職員間で話し合いを重ねながら、適切な対応を継続していきたい。	A	ICTの活用により、保護者の多様なニーズにも柔軟に対応しており、父母の会を通じて園の活動についての理解が保護者にしっかりと伝えられている。
	A	公開保育を活用した幼児教育の質向上を目指した研修(ECEQ)を行う機会を得て、子どもたちの『主体的な遊びとは』を日々考えながら保育を行った。子どもたちが考えや思いを積極的に表現するための、気負いのないクラスの雰囲気作りには、洗練された温かい声掛けが求められ、保育者の学びに繋がった。月に一度の園内研修には保育に対する疑問やつまづきなど解決しながら進めることができた。	A	毎月、趣向を凝らした活動や行事が実施されており、職員の創意工夫と努力がうかがえる。多彩な体験を通じて、子どもたちが楽しみながら成長できる環境が整えられている。
	B	家庭においても子どもたちの成長が実感されているとの報告が多く、一定の評価を概ねいただいている。特に各行事に対する満足度が高く、園での活動を楽しみにする、いきいきとした親子の様子がうかがえる。一方で、行事に対する期待が高まる中、前年からの変更点に不安を感じたり、説明を求める声が聞かれることもある。今後も「子どもにとってどうか」という視点をぶらさず、丁寧な説明を保護者に対して怠ることのないよう、引き続き努めていきたい。	A	保護者アンケートからは、保護者の満足度が高いことが読み取れ、各行事の内容についても親子で楽しみながら参加している様子が見られる。職員に対する感謝の言葉も多く寄せられている。
本年度の総合評価		近年課題となっていた、子どもたちの主体性を引き出す少人数グループでの活動に取り組んだ結果、子どもたちが自分なりの考えを素直に伝え、それを行動や形として発展させる姿が見られた。子どもたちの学びの姿は、年度ごとの個性によってさまざまであるが、その年ごとの変化こそが自然な姿であり、職員もその過程を楽しみながら、共に成長を喜ぶことができた。 本年度は、幼児教育の質の向上を目的としたプログラム「ECEQ」に取り組み、認定を受けた。また、職員の処遇改善を進めるとともに、研修の充実にも努めたことで、職員一人ひとりの資質向上にもつながった。	総合評価	卒園保護者から本園を選択したことを高く評価する声を多く聞く。子どもたちの成長の姿を実感でき、小学校へのつながりも一定の評価を得ている。保護者参加の行事を楽しみにする親の満足度も高いのは、その後の親同士のつながりもでき、卒園後も長くつながれる関係性が育まれていることにもある。年長児になると、場面に即した行動をとれるように自然な形で成長している様子があり、本園の安定した教育環境の賜物である。
今後の課題 取り組みの考察		今年度から施設型給付園となり、職員配置を整えることでチーム保育の充実を図った。人員が増加したことで、職員同士の連携力がより一層求められるようになった。今後も情報共有を怠ることのないよう、継続的な努力が必要である。一方で、若手職員の中途離職があり、若手職員の育成において課題が残った。しかしながら、自己の成長を実感しながら業務にあたる若手職員もおり、幼児教育に誇りを持って勤めることができる環境づくりの重要性を改めて認識した。ホームページのリニューアルにより園の情報が伝わりやすいよう改善した。新たに子育て支援の取り組みとして、「山名おやこルーム」を毎月1～3回開催し、未就園親子が集う場づくりをした。今後も継続していき地域の子育て世代をつなげたい。	総合所見	昨年度より引き続き、園児の減少という課題はあるものの、教育内容や園の環境は充実している。近年、要望の高まりがある満3歳児クラスの定員を増加したことで、全体数は保たれている。地域との関係性も良好で、地域イベントにも協力的である。幼児教育無償化で保育の質の低下などが保育業界の課題となっているが、幼児教育に定評のある本園は、逆境の中、幼児教育の質の向上のプログラムを受けてよく取り組んでいる。

※評価点の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組んでいるが成果が十分でない D…取り組みが不十分である